

FEATURE

# CSRの本音

—— CSR担当の悩みは、CSR活動が社内で理解されないことが最も多い。CSRとは「経営理念の実践」「本業を通じて行うもの」といえばいうほど、特別なことを伴わない活動は根付かない。マネジメントの中に上手く入れれば別だが。

しかし、東日本大震災以降、「戦略的な」CSRの必要性が問われることが増え「よい会社」であることが重視されはじめた。CSVの考え方なども登場し基礎的なブランド活動になるとも考えられる。やっと日の目があたらうとしている。

本テーマでは、CSRをその言葉の意味に強く縛られず、どう位置付けるべきかを議論し、日本でのCSRのあり方を探るものとする。

## Worry

### CSR部門の悩み

鈴木敦子（環境ビジネスエージェンシー）

「当社の営業部門から、“なんで本業に関係ないのには植林なんかやっているんだ？”とクレームがあり困っている」

近年は、このようなCSR部や環境部からのご相談がとて多い。多くの企業のCSR担当者達は「社外よりも社内の理解が全然進まない」と嘆く。今や「自社他部門から全く理解されていない自分たちの取組み」への対策は、CSR部門の抱える喫緊のテーマである。身内の理解を得ずして他人からの理解を深めようというのは虫の良い話であり、往々にして企業に於けるプロジェクトの成否は「いかに社内の支持者が多いか・敵を少なくするか」によって決まる。

一方、CSRの定義は確立されておらず、日本では慈善活動や寄付行為、倫理行動と誤解される傾向も少なくない。故に担当セクションをはじめ、このような誤解をしたまま推進される

CSR施策が、自社の取り組みとして説得力を持たなくなるのも無理からぬ事ともいえる。

現在、大企業を中心にCSR活動に熱心な日本企業たちの多くは、その取組のよりどころを国連の「グローバル・コンパクト（1999年提唱）」、日本経団連の「企業行動憲章（1991年制定）」および「CSR推進ツール（2005年公表）」、国際標準化機構の「ISO26000（2010年発行）」などに求めているが、そもそもわが国のCSRの歴史は古く、公害の時代に既に「企業の社会的責任」という言葉が使われていた。更に近江商人の「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」に代表されるように、経営理念としてCSRの考え方を取り入れる事業体は江戸時代まで遡ることが可能だ。

自尊心ある経営者であれば自社の社会的責任をしっかりと考えてきたのが日本の財界である

が、「CSR」という輸入ワードが急激に広まった2003年頃から、改めてCSR専任部門と担当役員を設置し、流行りのようにCSR施策を乱発する中で「本業からかけ離れた施策」が目立つようになってきた。

そのような中、3.11への支援策検討のプロセスは、自社のCSRの在り方そのものを振り返る良いきっかけにもなったといえる。以下、ほんの一部ではあるが「本業を通じた被災地支援」を行っている各社の好例を紹介する。

## 【東日本大震災における本業を活かした支援策事例】

### ① (株)セブン&アイ・ホールディングス

物流インフラの強みが発揮され、業界最速の支援物資提供。

[http://www.7andi.com/news/pdf/2007/20110312\\_1.pdf](http://www.7andi.com/news/pdf/2007/20110312_1.pdf)

### ② (株)伊藤園

「工場や倉庫にある商品は、非常時には救援物資に変わるものという認識が全社員に浸透」しているが故に震災後わずか3日間で60万本もの飲料水を配布。

[http://www.itoen.co.jp/info\\_02/110314/](http://www.itoen.co.jp/info_02/110314/)

[http://www.excite.co.jp/News/society\\_g/20110403/Postseven\\_16432.html](http://www.excite.co.jp/News/society_g/20110403/Postseven_16432.html)

### ③ ヤマトホールディングス(株)

宅急便1個につき10円の寄付(平成23年4月～平成24年3月)。

[http://www.yamato-hd.co.jp/news/h23/h23\\_03\\_01news.html](http://www.yamato-hd.co.jp/news/h23/h23_03_01news.html)

### ④ 本田技研工業(株)&パイオニア(株)

ホンダが会員向けに運営している「インターナビ・プレミアムクラブ」及びパイオニアの「スマートループ渋滞情報」の搭載車両から収集した走行軌跡データに基づき、ホンダが作成した

通行実績情報を「Google Crisis Response」自動車・通行実績情報マップと「Yahoo!地図」道路通行確認マップで公開して、被災地域の移動支援を実施。

<http://traffic.premium-club.jp/earthquake/sanriku/>

### ⑤ ヤフー(株)

Yahoo!ショッピングへの出店ストアから、被災地で必要とされている物資(商品)を原価で提供、「被災地へのギフト」としてYahoo!ショッピング上で販売。

<http://topics.shopping.yahoo.co.jp/sale/whatshot/food/00009/index.html>

これらは全て当該企業だからこそ実施できた施策である。

輸入された言葉だけが一人歩きし、なにやらまったく新しい概念のように捉えられがちなCSRは、それだけが切り出されて体制ばかり妙に整備され、故に必死になって新規軸を担おうとする企業が少なくないが、何も新規である必要はないのである。従来 of 取組の中にも既にCSR的な施策があるだろう。「自社故に講じるべき・講じることが出来るCSR」を今一度真剣に考える時だ。

最後に、当社が関与する「本業を通じた平時のCSR」の一例を紹介する。

## 【新生紙/パルプ商事(株)の「1% for PT」】

<http://www.sppcl.co.jp/products/pt.html>

紙は森林資源から作られます。森林を上手に循環させませんか。

「1% for Present Tree」は紙・フィルム等の購入額1%が森林育成に使われる植林プロジェクトです。



紙流通業である同社は商品の殆どが森林資源に由来することから、販売代金の1%が森林再生に投下されるというスキームを構築し「1% for PT」マークを付けた商品を展開。具体的な森林保全活動に繋がると同時に、他社との差別化にも一役買っている。

すずき・あつこ/㈱環境ビジネスエージェンシー 代表取締役

認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所 理事長

1992年学習院大学法学部政治学科卒業。大手製紙会社、環境コンサルティング企業を経て2003年 NPO 法人「環境リレーションズ研究所」を設立し、理事長に就任。環境分野に特化した経営コンサルティング会社の設立にも参加し、05年同社を再編した「環境ビジネスエージェンシー」の代表取締役に就任し現在に至る。環境省の環境ビジネスウイメン懇談会メンバーとなり、一般社団法人環境ビジネスウイメン理事としても活動。エコ商品の開発や企業の環境プロジェクトを数多く手がけ、著書に「環境ビジネスウイメン」(共著)など

## Motivation

# 「今どきの学生」×「わら草履」

見山謙一郎 (次世代人財塾・適十塾)

スマートフォンを巧みに使いこなす、今どきの学生に、「わら草履をつくってみないか?」と誘ってみたら、どのような反応を示すだろうか?そもそも、「今どきの学生」と「わら草履」という二つの言葉を並べて眺めてみたところで、とてもつながるようには思えない。しかし、「途上国の自立」という、モチベーションが加味されると・・・。

今年9月、日本の大学生24人が、わら草履の技術を伝える為に、バングラデシュに渡った。

### なぜ、途上国にわら草履か?

2009年11月、私は、2006年に貧困層へのマイクロクレジット(少額融資)でノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏が発起人となり、ドイツで開催された会議に参加した。この会議で、スポーツ用品メーカーのアディダス社が、グラミン銀行と提携し、バングラデシュの農村部の人々でも買えるような、1ドル程度の安価な靴をつくるプロジェクトを始めていることを知った。聞くとところによると、バングラデシュの農村部では、靴を買えない(履けない)が為に、足の裏から病原菌が入り、健康を害す人が多く存在するそうだ。しかしながら、機能

面を妥協せず、1ドルの靴をつくることは、なかなか難しいらしく、未だ開発途上という話であった。

帰国後、この話を私のゼミで話したところ、「工業製品である“靴”よりも、現地の人が自分でつくれる“わら草履”の方がいい」という意見がある学生から出された。確かに、バングラデシュでは、米が生産されている。米があるなら、“わら”だってあるはずだ。現地の素材を使ってわら草履をつくることが出来れば、つくった人は、自分で履くことも出来るし、もしかすると、収入を得る手段になるかも知れない。老子の「授人以魚 不如授人以漁(魚を与えると一日で食べてしまうが、釣り方を教えると一生食べていける)」にも通ずる話でもあり、いつか必ずかたちにしたいと思った。

### 「今どきの学生」×「わら草履」⇒「途上国の自立支援」

私の経歴はかなり変わっている。メガバンクで15年半勤務した後、環境融資を行う非営利の金融組織(NPOバンク)の運営に参画した後、今は国内外の企業や、地方銀行のコンサル業務に従事し、大学で教鞭もとっている。こうした奇妙な経歴であるが故か、私のところには、「閉塞感